ディボーションノート　３６

|  |
| --- |
| ９月１４日(月曜)　 ヨブ記　第１９章  　2回目の議論の途中です。二人目のビルダデはシュヒ人とあり、アラビヤ方面の出身かと思われます。18章で、お前は詭弁(きべん)を弄していて、全く道理に合わないことをいつまで言うのか、とヨブを責め立てました。ヨブは答えます。「この苦しみは神から来ている。神の御手がわたしを打たれたのだ。わたしの栄え・望み・兄弟・親類・僕・はした女・妻・親しい人・愛した人の全てが、神によって引き離された。」この悲嘆のどん底で、ヨブは歌うのです。「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる。後の日に彼は必ず地の上に立たれる。」この歌詞で「メサイヤ」の名曲が歌われます。苦しめる神を、「わたしをあがなう者」と呼ぶ信仰。最後の時に、この地上に来られる「贖い主」は生きておられる。弁護者、救い主が来られる。旧約聖書の中に輝く預言の言葉です。悲嘆のどん底からの祈りです。「アバ父よ」と叫ぶ御子イエスの霊を、わたしたちに注ぎ与え続けてくださる神の恵み(ローマ8章・ガラテヤ4章)。 |
| ９月１５日(火曜)　 ヨブ記　第２０章  　ナアマ人ゾパルが三人目に登場します。ヨブを悪しき人と呼び、「悪しき人の勝ち誇はしばらくであって、神を信じない者の楽しみはただつかの間である。」と断罪します。だから、ヨブよ、早く自分の罪を認めよと迫ります。「天には贖い主、弁護者がおられる。」と言うヨブに対して、そうではない、その反対に、「天はお前の罪をあらわし、地は起ってお前を攻めるであろう。」と応答します。「これが悪しき人の神から受ける分、神によって定められた嗣業である。」と、まるで神の代わりを演じているかのような言い方です。誰であっても、人は、他人の善悪を判断する資格も能力も権利もないのです。神だけが正しく裁くことができる方です。主イエス・キリストの山の上の説教の言葉。「人をさばくな。自分がさばかれないためである。あなたがたがさばくそのさばきで、自分もさばかれ、あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられるであろう。」 |
| ９月１６日(水曜) 　ヨブ記　第２１章  　ヨブは「いや現実は悪人が栄えている。」と反論します。7節「なにゆえ悪しき人が生きながらえ、老齢に達し、かつ力強くなるのか」。また13節「その日をさいわいに過ごし、安らかに陰府にくだる」。そして悪しき者は、こう公言している。「全能者は何者なので、われわれはこれに仕えねばならないのか。われわれはこれに祈っても、なんの益があるか」と。ゾパルよ、悪しき者は風前の灯と言うが、本当にそうなのか。信仰の完全な者は繁栄し、不信仰な者は災いを受けると言うが、ゾパルよ、因果応報の教理など本当にあるのか。よくこの現実を見なさい。ヨブは厳しく反論します。義人が苦しみ、悪人が栄える。それも神の自由さの中で起こることではないだろうか。因果応報は間違った、不自由な、固定した信仰の量りである。 |
| ９月１７日(木曜)　 ヨブ記　第２２章  　ここから第3回目の議論が始まります。エリパズとビルダデの二人が登場します。3節で、「あなたが正しくても、全能者になんの喜びがあろう。あなたが自分の道を全うしても、彼になんの利益があろう。」と語りだします。神は絶対的なお方であり、全てのことに超越されているから、おまえの正しさなど関係ない、とエリパズが反論します。確かに神は絶対的な超越者ですが、また憐れみ深いご人格をお持ちの方です。神を一面的にとらえると、神とはこう言うお方と決め付けて、自分の考えで神を描き出します。ですからエリパズは、これだけ苦しんでいるヨブは相当な悪事を行っていると思い込み、あなたの悪と罪は大きいからだ、とヨブを責めるのです。6節以下のことをヨブは行っていません。因果応報で一方的に見ているエリパズには、神がヨブにお与えになった苦難が理解できないのです。試練の意味と恵みが理解できません。主イエスは「自分の十字架を負うてわたしについて来なさい」と招かれました。(マタイ10：38、同16：24、ルカ14：27) |
| ９月１８日(金曜) 　ヨブ記　第２３章  　ヨブは神とお会いして、どうしてわたしを苦しめられるのか、徹底的に議論したいと訴えます。「わたしは彼の前にわたしの訴えをならべ、口をきわめて論議するであろう。」神の前では「正しい人は彼と言い争うことができる。そうすれば、わたしはわたしをさばく者から永久に救われるであろう。」とヨブは訴えます。しかし神はご自身を隠されているので、ヨブには見えないのです。ヨブが見ている神は、「その心の欲するところを行われ、わたしのために定められたことを成し遂げられる」お方として描かれています。神は神の御心のままに成されるお方であると。一方で自分の潔白を確信し、他方で神が神であられるゆえに神の自由さの中で万事を行われる、とヨブは信仰を告白しているのです。 |
| ９月１９日(土曜)　 ヨブ記　第２４章  　全能者である神は、どうして正しい裁きをなさる日を決めておられないのか。その日が来れば、義人の潔白は明らかになり、悪人の本当の裁きも行われるに違いない。そう訴えつつ、悪しき者のもろもろの行いを描き出します。17節が結びです。「彼らには暗黒は朝である。彼らは暗黒の恐れを友とするからだ。」暗黒を友として悪事を続け、暗黒が朝であるように考えている人々。因果応報で見るならば、すぐに滅びるはずではないか。しかし逆であり、むしろ生きながらえ、起き上がる(22節)。悪が世に勝っている。ヨブはこの現実は、神の正義の支配からほど遠いと訴えるのです。 |